

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成30年8月16日(2018.8.16)

【公表番号】特表2017-524216(P2017-524216A)

【公表日】平成29年8月24日(2017.8.24)

【年通号数】公開・登録公報2017-032

【出願番号】特願2017-521300(P2017-521300)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/01 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/01 5 7 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年7月5日(2018.7.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

個々の部品や部材の上述した配置ならびに個々の部品や部材の上述した相対的な寸法および形状などは、単なる例示であることを理解されたい。3つのディスプレイ2 aおよび2 bの代わりに、1つまたは2つのディスプレイのみが設けられてもよい。センサ3, 7および8は、異なって配置されてもよく、また、1種類のセンサが2つ以上存在してもよい。図示のセンサおよびマイクロフォンに加えて、さらに別のインタフェースおよび入力要素が設けられてもよい。

なお、本発明は、態様として以下の内容を含む。

〔態様 1〕

対話型のミラーであって、

反射性ミラー面と、

前記ミラー面と一体化した少なくとも1つのディスプレイと、

当該ミラーと一体化した少なくとも1つのアクティブ型赤外線センサと、

前記少なくとも1つのアクティブ型赤外線センサによって検出されたデータに基づいて、前記ミラーの前で行う人物の動きとジェスチャのいずれか一方または両方を判定するように適合されたプロセッサとを備えた対話型ミラー。

〔態様 2〕

態様 1 に記載の対話型ミラーにおいて、当該対話型ミラーが、無線または有線によって1つ以上の外部電子機器と通信するように適合され、好ましくは、ある外部電子機器が当該ミラーに近付けられることと、ある外部電子機器が当該ミラーの近傍で電源が投入されることとのいずれか一方または両方が満たされると、この外部電子機器を認識するように適合されている対話型ミラー。

〔態様 3〕

態様 2 に記載の対話型ミラーにおいて、当該対話型ミラーが、近距離無線通信、ブルートゥース（登録商標）送信機もしくはブルートゥース（登録商標）受信機またはブルートゥース（登録商標）送受信機、W i F i（登録商標）、T P イーサネット（登録商標）、4 3 3 M H z ネットワークもしくは8 6 6 M H z ネットワーク、Z i g B e e（登録商標）ネットワーク、R F I D センサ、ならびに赤外線送信機もしくは赤外線受信機または赤外線送受信機のインタフェースのうちの1つまたは組合せを含む対話型ミラー。

〔態様 4〕

態様 2 または 3 に記載の対話型ミラーにおいて、当該対話型ミラーが、外部電子機器から受信したデータに基づいて、(i)非アクティブモードからアクティブモードへの切替、(ii)アクティブモードから非アクティブモードへの切替、(iii)前記外部電子機器に関連するアプリケーションの始動と終了のいずれか一方または両方、(iv)機器固有情報の前記ディスプレイへの表示、(v)指示の前記ディスプレイへの表示、(vi)前記外部電子機器の以前の使用と推奨される使用のいずれか一方または両方に対応する利用データの表示、(vii)さらに別の外部電子機器の制御、ならびに(viii)機器固有情報と利用データのいずれか一方または両方のさらに別の外部電子機器への送信の手順のうちの 1 つ以上を実行するように適合されている対話型ミラー。

〔態様 5〕

態様 2 から 4 のいずれか一態様に記載の対話型ミラーにおいて、当該対話型ミラーが、外部電子機器を、好ましくは、2 つ以上の電子機器を同時に制御するように適合されている対話型ミラー。

〔態様 6〕

態様 5 に記載の対話型ミラーにおいて、前記制御が、前記ミラーの前で行う動きとジェスチャのいずれか一方または両方によって制御自在である対話型ミラー。

〔態様 7〕

態様 1 から 6 のいずれか一態様に記載の対話型ミラーにおいて、当該対話型ミラーが、さらに、マイクロフォンを備えた対話型ミラー。

〔態様 8〕

態様 1 から 7 のいずれか一態様に記載の対話型ミラーにおいて、前記プロセッサが、前記少なくとも 1 つのアクティブ型赤外線センサによって検出されたデータに基づいて、前記ミラーの前の人物を識別するように適合されている対話型ミラー。

〔態様 9〕

態様 8 に記載の対話型ミラーにおいて、前記プロセッサが、前記識別に基づいて、前記ディスプレイ上に個人専用のデータを映し出すように適合されている対話型ミラー。

〔態様 10〕

態様 1 から 9 のいずれか一態様に記載の対話型ミラーにおいて、前記少なくとも 1 つのディスプレイが、互いに隣り合って配置された 2 つのディスプレイを含み、これらディスプレイは、好ましくは、前記ミラーの前の 2 人の人物により同時に使用可能である対話型ミラー。

〔態様 11〕

態様 10 に記載の対話型ミラーにおいて、前記少なくとも 1 つのアクティブ型赤外線センサによって検出されたデータに基づいて、前記プロセッサが、前記ミラーの前の 2 人の人物が同時に行う動きとジェスチャのいずれか一方または両方を判定し、前記 2 つのディスプレイを前記 2 人の人物にそれぞれ割り当てるように適合されている対話型ミラー。

〔態様 12〕

態様 1 から 11 のいずれか一態様に記載の対話型ミラーにおいて、前記プロセッサが、前記ディスプレイ上に表示される情報を前記ミラーの前の人物の鏡像と合体するように、または、前記ディスプレイ上に表示される情報を前記ミラーの前の人物の鏡像に映し出すように適合されている対話型ミラー。

〔態様 13〕

対話型ミラーを制御する方法であって、

(a)少なくとも 1 つのディスプレイ、少なくとも 1 つのアクティブ型赤外線センサ、および少なくとも 1 つのプロセッサを備えた対話型ミラー、好ましくは、態様 1 から 12 のいずれか一態様に記載の対話型ミラーを提供する工程と、

(b)前記ミラーの前で動きとジェスチャのいずれか一方または両方を行う工程と、

(c)前記少なくとも 1 つのアクティブ型赤外線センサによって、行われる前記動きとジェスチャのいずれか一方または両方を検出する工程と、

(d)前記ミラーの前で行われる前記動きとジェスチャのいずれか一方または両方を判定

するために、前記少なくとも 1 つのアクティブ型赤外線センサによって検出されたデータを、前記プロセッサによって解析する工程とを備えた方法。